

「子どもが生き生きと学ぶ生活科」

～生き生きと学ぶ子どもを育てる指導と評価のあり方～

I. 研究の内容

1. 研究の具体的な内容と方法

東山梨地区生活科教育研究部会では、県のテーマを受けて、その基となる「気づき」を中心とした「評価」に視点を当てた研究を進めていくことを部会のスタートにあたって確認した。そして、サブテーマ「生き生きと学ぶ子どもを育てる指導と評価の在り方」を設定し、研究を重ねてきた。

「指導と評価の一体化」を考えると、言うまでもなく評価することは指導することに他ならない。そこで、国立教育政策研究所が示している「評価規準作成のための参考資料」を用いて、具体的な評価規準のたて方やその見取り方についての研究・実践を進めていくことが現実的であると考え、研究計画に基づいて評価の基本事項から確認した。また、授業研究を通して設定された評価規準が授業の中でどのように扱われているかを検証してきた。

体験や活動を通して学ぶことの多い生活科において、豊かな学力を身につけさせるためには「育てたい力」を明確にしておくことは必要である。そのねらいに基づいて子どもたちが表現した「自らの学び」をどのように評価していくか、また育てたい力が育っているか見取る方法をさぐることで、より生き生きと学ぶ生活科が実践できると考える。

研究を進めるにあたり、新しく選択された教科書の編集者を招いての講演や、生活科について基本から学ぶ学習会なども行った。また、「東山版 新評価規準を生かす授業づくり」として評価方法等の工夫改善のための参考資料となる冊子をまとめることにも取り組み、活用の幅を広げていきたいと考えている。

2. 研究授業

(1) 第1学年「はながうたうよ るんららん」～わたしのはなをさかせたい～

(授業者 日下部小学校 高野 育愛教諭)

あさがおの栽培や観察を継続的に行う活動を通して、植物を大切に育てようとする態度を育むことや、あさがおの特徴や変化、成長の様子に気が付くこと、あさがおに親しみを持って上手に世話ができるようになったじぶんに気が付くことをねらいとして取り組んだ授業実践である。

研究授業では、あさがおの変化や成長の様子についてあさがおの立場に立って考え、自分の世話の仕方を振り返ることを目標に、「なりきりてがみ」を書くという新しい取り組みが行われた。自分がしてきたあさがおの世話を振り返り、どんなことをしたのか、自分の世話の仕方と成長を関連させながら考えられるように気付きを促し、あさがおの立場に

なって、自分への手紙を書く活動を通して客観的な視点での振り返りをねらった。子どもたちの素直なつぶやきや子どもらしい表情からもあさがおへの愛情が伝わる授業であった。

(2) 第2学年「つくってワイワイあそんでワイワイ」

(授業者 大和小学校 武井 敏江教諭)

身近な自然や、身近にある物を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作り、その面白さや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しんだり、1年生や保育園児との交流を深めたりすることを目標に取り組んだ授業実践である。

自分たちでつくった「おもちゃランド」で活動したことを写真を使って振り返り、1年生や保育園児を招待するためにどのようなことをしていったらいいのか、計画を立てることが行われた。さまざまなおもちゃが考えられ、ルールなども工夫していることが作品や子どもたちの発言、表情から伝わってきた。実際に遊んだことで気づく、おもちゃの工夫やルールの改善など、友達の意見を聞いてさらに楽しめる物にしたいという思いを感じた。また「おもちゃランド」に招待した子どもたちに楽しんでもらうための約束やルールはどうしたらいいか、子どもたちなりに一生懸命考え、計画を立てようと意見もたくさん出されていた。子どもたちのおもちゃづくりへの意欲と招待することへの期待感が伝わってくる授業であった。

II. 成果と課題

【成果】

○評価基準に視点を当てた授業づくりを行ったり、冊子作りを行ったりすることで、全員が主体的に関わって研究を行うことができた。研究の成果として冊子を残すことができ、今後の実践にも生かすことができると思う。

○授業者の先生方にはご苦勞をいただき、普段子どもたちと向き合い、子どもたちの実態から教師の思いや願いが込められた授業実践を見せていただいた。時期も限られ大変ではあるが、今後も学び合うことのできる授業研究を継続していきたい。

○部会内に心強い助言者の先生がいてくださり、常に学びを深めるアドバイスをいただけたことは大変ありがたかった。

○教科書が新しくなったタイミングで教科書の学習会を行えたことも大変よかった。教科書に込められた願いや使い方がわかり、教科書に込められた思いをくみ取って授業に使うことができる。

【課題】

○「新評価規準を生かす授業づくり」の冊子を作成したので互いに交流したり、冊子の活用をしたりしていきたい。

○授業研の時期が限られており、似たような内容に偏ってしまうことが本部会においては毎年課題になっている。内容の広がりを工夫したい。

(部長 田邊 珠紀)